

③効果的な情報発信の推進



大気や水などの環境の分野は、一般的になじみのない用語が使われることも少なくないため、分かりやすさを意識するとともに、情報の受け取り手を考慮して、リーフレット、ホームページ、SNS など、様々な媒体を活用した情報発信を行うとともに、身近な地域環境への関心を高めてもらえるよう、地域ごとの取組や環境データの紹介及び公害の歴史や優れた環境の取組などの展示等による情報発信を推進しています。

また、次世代自動車や自転車の活用などを通じた、地球にやさしい交通環境に関する普及啓発など、市民の環境配慮行動の促進につながる情報発信等に係る取組も推進しています。

1 多様な世代に合わせた情報発信（Ⅱ-1-③-1 関係）

環境情報の提供については、環境の状況を的確に把握し、公害防止のために行った必要な監視等について、調査結果等がまとまり次第公表しています。

令和5(2023)年度は、市民、事業者等への情報提供として、次のような取組を実施しています。

(1) インターネットホームページ

大気、水質、土壌汚染、騒音・振動、地盤沈下等の分野ごとの各種取組や関連情報について、ホームページに掲載し必要に応じて随時更新しています。

ア 川崎市：地域環境対策

<主なコンテンツ>

コンテンツ名	主な掲載内容
「川崎市の大気」	窒素酸化物等の大気汚染状況や工場等からの排出状況、アスベストや酸性雨等の調査結果他
「水環境情報」	河川・海域の水質調査結果、水のよごれの基礎知識、川の生きもの他
「騒音・振動」	騒音・振動の対策、音環境の調査結果、関連条例他
「化学物質関連情報」	PRTR 関連情報、環境・リスクコミュニケーション等の化学物質対策他
「地盤情報」	市の地盤沈下、市内の標高、地下水の揚水に関する規制他
「川崎市の土壌汚染対策」	土壌汚染対策法・土壌汚染対策に係る市の条例、土壌汚染の調査・対策に関する手続、土壌汚染対策処理業他
「交通環境対策関連情報」	エコ運搬制度、次世代自動車の普及、エコドライブの普及、交通需要マネジメント、局地汚染対策、交通騒音振動対策、ディーゼル車規制他
「アスベスト」	本市の取組、大気環境濃度の測定結果、アスベスト相談窓口一覧他
「川崎市公害防止等生活環境の保全に関する条例」	川崎市公害防止等生活環境の保全に関する条例及び施行規則、指針等一覧、届出様式他

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-1-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

川崎 環境対策

検索

イ 川崎市：環境総合研究所

<主なコンテンツ>

コンテンツ名	主な掲載内容
「環境総合研究所の概要」	環境総合研究所の概要、組織
「調査・研究」	大気環境調査・研究、水環境調査・研究、化学物質調査・研究、放射線調査・研究、都市環境調査・研究
「大気の常時監視」	大気常時監視システム、大気環境測定データ
「環境総合研究所アーカイブスペース」	環境総合研究所アーカイブスペースの所在地、開設日時、展示内容
「環境学習・イベント・セミナー」	環境総合研究所主催のイベント・セミナー、研究所内の見学受付、環境学習用教材の貸出し
「資料」	環境総合研究所（旧公害研究所）年報、川崎市の大気環境、環境放射能調査報告書、その他パンフレット等

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-10-0-0-0-0-0-0-0.html>

川崎 環境総合研究所 

ウ 川崎市：環境技術情報ポータルサイト

<主なコンテンツ>

「川崎市の環境技術」、「国際貢献・連携」、「産学公民共同研究」、「刊行物・資料」、「フォーラム・セミナー」

<https://eri-kawasaki.jp/>

川崎市 環境技術情報 

エ 川崎環境ポータルサイト

<主なコンテンツ>

「イベント・お知らせ」、「施設情報」、「資料室」、「環境動画アーカイブ」、「関連リンク紹介」、「月刊 環境情報」

<https://www.portal-env.city.kawasaki.jp/>

川崎環境ポータルサイト 

(2) SNS

本市の環境関連のイベント情報や取組を随時発信しています。

川崎市環境総合研究所 公式 X (旧 Twitter) @kawasaki_keril

(3) 公害の歴史の学習施設やコンテンツ

本市が公害の克服に向けて進めてきた取組の歴史や現在の取組について、次の施設やホームページで公開しています。

ア 川崎市環境総合研究所 アーカイブスペース

「川崎市環境総合研究所アーカイブスペース～川崎から世界へ～未来へはばたく環境技術」では、本市が公害の克服に向けて進めてきた取組の歴史のほか、優れた環境技術や取組などを映像や展示物により紹介しています。

【場所】川崎市川崎区殿町3丁目25番13号 川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）1階

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-10-9-0-0-0-0-0-0-0.html>

川崎市 環境 アーカイブ

検索

イ 川崎市 かわさきエコ暮らし未来館

「かわさきエコ暮らし未来館」は、地球温暖化、再生可能エネルギー、資源循環の3つのテーマを中心に、環境を守るためにはどうしたらよいのかを具体的に体験しながら楽しく学んでいただける施設です。2階展示スペースにある「川崎の暮らし環境100年のアルバム」では、本市の100年の環境の歴史と川崎の環境について紹介しています。

【場所】川崎市川崎区浮島町509番-1 浮島処理センター内

<https://eco-miraikan.jp/index.html>

川崎市 エコ暮らし未来館

検索

ウ 川崎市：川崎市の公害の歴史を学ぶ

公害に関する情報収集と整理を行い、公害の歴史を伝えるとともに、環境の大切さについても広く情報発信することを目的として公開しているインターネットホームページです。

<https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000101969.html>

川崎市 公害の歴史

検索

エ 川崎市の公害の現状や対策に関する主な刊行物

「川崎市の大気・水環境」

<https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000164589.html>

「川崎市の大気」

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-1-4-0-0-0-0-0-0-0.html>

「大気環境情報」

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-9-5-3-0-0-0-0-0-0.html>

「水環境データ集」

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-1-5-13-0-0-0-0-0-0.html>

「川崎市環境総合研究所年報」

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-10-11-9-0-0-0-0-0-0.html>

「川崎市環境基本計画」

<https://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/54-5-6-1-0-0-0-0-0-0.html>

2 情報発信等による次世代自動車の普及促進（Ⅱ-1-③-3 関係）

(1) 自動車の保有台数

ア 市内自動車保有台数

令和5(2023)年度末における市内の自動車保有台数は47.1万台で、車種構成は、乗用車が29.1万台で全体の約62%を占め、次いで軽四輪自動車が8.5万台（約18%）でした。

市内保有台数の合計について、10年前の平成25(2013)年度末と比較すると、増加傾向でした。車種別で見ると、乗用車は0.91万台（約3.0%）減少し、貨物車、軽四輪自動車は、それぞれ0.19万台（5.1%）、1.31万台（18.3%）増加しました。

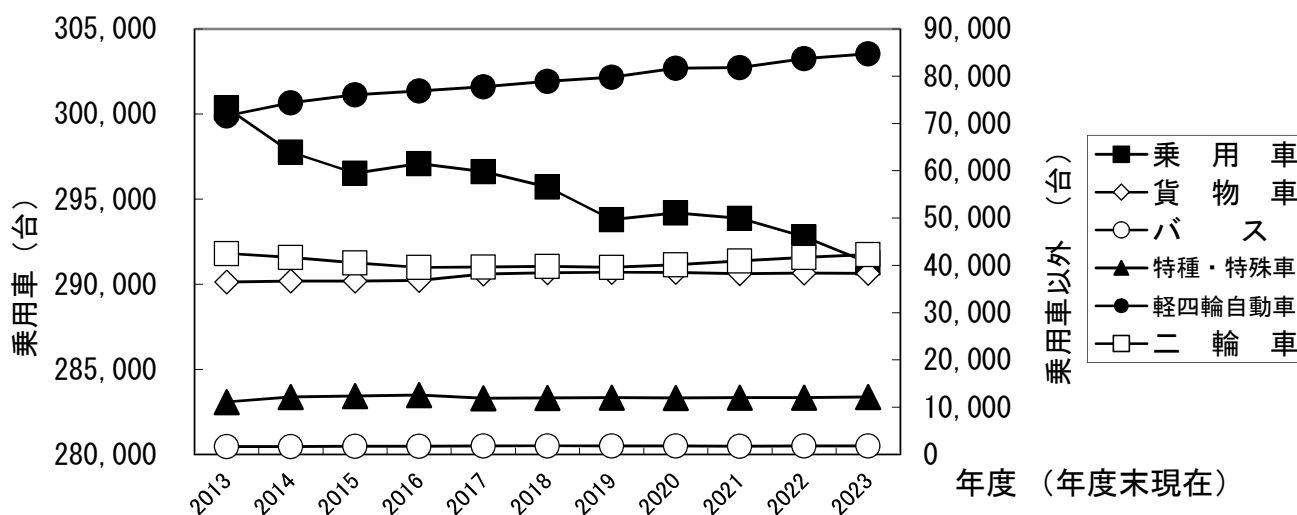
市内の車種別保有台数の推移について、貨物車及び軽四輪自動車では、平成25(2013)年度からは増加傾向にあります。一方、乗用車については、平成25(2013)年度以降、減少傾向にあります。

市内における車種別自動車保有台数

(単位：台)

年度	乗用車	貨物車	バス	特種・特殊車	軽四輪自動車	二輪車	合計
2013	300,355	36,461	1,661	11,105	71,625	42,506	463,713
2023	291,266	38,323	1,783	12,187	84,732	42,322	470,613

(国土交通省：自動車保有車両数から川崎市集計)



(国土交通省：自動車保有車両数から川崎市集計)

市内車種別自動車保有台数経年推移

イ 市内におけるディーゼル車保有台数

市内におけるディーゼル車保有台数（ディーゼル車運行規制対象外の乗用車を除く。）は、令和5（2023）年度末は、令和4（2022）年度末と比較して約0.6%増加しています。また、平成30（2018）年度末と比較して、貨物車、特種・特殊車で保有台数は増加しています。

市内におけるディーゼル車保有台数（乗用車を除く。）

（単位：台）

年 度	貨 物 車	バ ス	特種・特殊車	合 計	前年度比較
2018	20,170	1,594	8,348	30,112	1.6%
2019	20,396	1,594	8,399	30,389	0.9%
2020	20,417	1,538	8,320	30,275	-0.4%
2021	20,263	1,486	8,353	30,102	-0.6%
2022	20,394	1,558	8,311	30,263	0.5%
2023	20,535	1,502	8,397	30,434	0.6%
2018・2023年度比較	1.8%	-5.8%	0.6%	1.1%	

（国土交通省：自動車保有車両数から川崎市集計）

ウ 市内の低公害車普及台数

九都県市首脳会議環境問題対策委員会大気保全専門部会（以下「九都県市大気保全専門部会」といいます。）では、低公害車の普及拡大を図るために「九都県市低公害車指定指針（平成8（1996）年3月制定）」に基づき指定を行っています。九都県市指定低公害車は、燃料電池自動車、電気自動車、CNG車、プラグインハイブリッド車、ハイブリッド車や低公害・低燃費なガソリン車、ディーゼル車を指定しています。

市内における九都県市指定低公害車保有状況（二輪車を除く。）

（単位：台）

年度	自動車保有台数に占める 九都県市指定低公害車の割合	市内における 九都県市指定低公害車台数	市内における 自動車保有台数
2018	68.8%	290,567	422,245
2019	70.5%	296,918	421,346
2020	70.1%	297,009	423,405
2021	68.1%	288,597	423,890
2022	65.7%	278,588	423,959

（九都県市大気保全専門部会調べ）

エ 低公害車の普及

地域の環境改善のためには、窒素酸化物や粒子状物質の排出量の多い車両を、排出量のより少ない低公害な車両へ転換させることが有効です。本市はこれまで公用車に燃料電池自動車や電気自動車など、低公害車の率先導入を図るとともに、民間事業者への低公害車の導入促進に努めています。

(ア) 公用車の低公害車調達

公用車の調達に当たっては、平成14(2002)年度以降「川崎市グリーン購入推進方針」に車両導入の基準を定め、次世代自動車や九都県市指定低公害車を優先して導入しています。令和6(2024)年3月末現在、総台数1,605台のうち1,385台が九都県市指定低公害車です。

川崎市公用車の使用台数と九都県市指定低公害車台数経年推移

(単位：台)

	2020 年度末		2021 年度末		2022 年度末		2023 年度末	
	総台数	低公害車	総台数	低公害車	総台数	低公害車	総台数	低公害車
燃料電池	3	3	3	3	3	3	3	3
電気	10	10	10	10	14	14	18	18
プラグインハイブリッド	4	4	4	4	4	4	4	4
ハイブリッド	254	248	268	267	279	279	323	280
CNG	2	2	0	0	0	0	0	0
ガソリン・軽油	1,389	1,223	1,320	1,155	1,299	1,146	1,257	1,080
計	1,662	1,490	1,605	1,439	1,599	1,446	1,605	1,385

(イ) 低公害車導入助成制度

市内事業者へ低公害車を普及させるため、平成15(2003)年度に助成制度を創設しました。本制度を活用して令和5(2023)年度に導入された低公害車は、24台でした。この助成制度の概要は次のとおりです。

低公害車導入助成制度概要

交付対象者	・ 川崎市内の事業者 ・ 川崎市内の事業者に自動車を貸与する自動車リース事業者
助成対象車両	① 天然ガス自動車 ② ハイブリッド自動車（車両総重量3.5トン超） ③ 使用過程のディーゼル車を天然ガス車へ改造した自動車
交付上限額	①、② 最大積載量4トン未満：20万円 ①、② 最大積載量4トン以上：40万円 ③ 30万円

(ウ) イベント等の普及啓発

令和5(2023)年度は、市内で実施したイベント等において燃料電池自動車の展示を5回実施しました。